

● エリアマネジメントへのビッグデータ、AIの活用の動き

6月15日、日建設計総合研究所とNTT、三井不動産は、ビッグデータとAIをエリアマネジメントに活かすためのプラットフォームの実証実験を開始すると発表した。

日建設計総合研究所とNTTは、都市の様々なビッグデータをエリアマネジメントに活かすため、AI（人工知能）を利用したエリア情報活用プラットフォーム「AI×AI（アイアイ）（仮称）」の共同研究を行ってきた。今回、このプラットフォームの実現に向け、三井不動産との協働により実証実験に向けた事前調査を行うことを発表した。今後、日本橋室町地区において、このプラットフォームを実際の計画・マネジメントに活かすための実証実験を行う予定である。

具体的には、人の流れのリアルタイム把握を主軸に据え、人流の粗密に応じた空調制御やエレベーター等の運行の最適化、清掃仕様の最適化、将来の歩行者通行量の予測・提供などを目標としている（下図参照）。なお、この「AI×AI」は、エリアマネジメント以外にも、空港やターミナル駅、スタジアム等の大規模施設での応用も視野に入れている。

エリアマネジメントにおいては、地域の主体がみずから取り組み、実施する組織を維持運営していくことで、地域を育てていくことが求められる。そのため、イベント等の効果的な実施による活動の促進や、取り組みの効果検証が重要となる。ビッグデータ、AIの活用により、例えばイベントの効果予測や、歩行者数だけでなくより詳細な来街者の流動のデータをもとにした効果検証が可能になる。今後、こうしたプラットフォームが洗練されていくことで、より効果的なエリアマネジメントの取り組みが図られることが期待される。



実証実験のイメージ図（出所：プレスリリース）

(参考資料) [日本橋室町地区において都市ビッグデータとAIの活用をめざした共同実験を開始\(プレスリリース\)](#)